

NHK交響楽団 ヨーロッパ音楽祭ツアーについて

NHKとNHK交響楽団では、下記のとおりヨーロッパへの音楽祭ツアーを実施することになりました。今回は、9月から音楽監督に就任するウラディーミル・アシュケナージの指揮で、5か国5都市で5公演を行ないます。

10年ぶり3回目の訪問国であるベルギーから始まり、2001年の音楽祭ツアーに次ぐ2回目の出演となるアムステルダムまで、すべての演奏会が内外から注目を集めている音楽祭の中心に位置づけられています。

記

指揮 : ウラディーミル・アシュケナージ
ヴァイオリン : ジュリアン・ラクリン
バグパイプ : ゲンター・ハウスクネヒト*

演奏曲目 :

[プログラム A]

武満 徹/鳥は星形の庭に降りる

チャイコフスキー/ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35

ショスタコーヴィチ/交響曲 第5番 二短調 作品47

[プログラム B] (7月13日公演のみ)

P.マクスウェル デーヴィズ/オークニーの結婚式

~オーケストラとバグパイプのための*

チャイコフスキー/ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35

ベートーヴェン/交響曲 第4番 変ロ長調 作品60

公演地	:	7月10日(土)	ブルージュ(ベルギー)
		7月12日(月)	リュブリャナ(スロベニア)
		7月13日(火)	フィラッハ(オーストリア)
		7月15日(木)	キール(ドイツ)
		7月16日(金)	アムステルダム(オランダ)

助成 : 文化庁、財団法人ローム ミュージック ファンデーション

協賛 : アイシン・エイ・ダブリュ株式会社、NEC

サマータイム(ブルージュ)

ブルージュは何世紀にもわたって文化と経済の出会いの場であったが、欧州文化首都に選定された2002年は数多くの関連行事が催され、新たな文化の未来への幕開けとなった。コンサートホールでは、2003年1月に独自のプログラムの初演が行われて、1年間に少なくとも7万人近い人々がここを訪れ、その催しを満喫した。

ホールの客席数は大ホール1,200席、室内楽ホール320席で、建物内の他の空間と同様に窓を介して外の世界と直接繋がっている。また演奏者と聴衆の間の視界が妨げられないような配慮がなされたホールでは、双方が親しみやすい雰囲気の中で音楽を楽しむことが出来る。

N響は、定期公演のSymphonic Aに含まれており、ここにはフィルハーモニア管やロッテルダム・フィルなど、ヨーロッパのメジャー・オーケストラも出演する。またN響は同時に<サマータイム>というシリーズにも位置づけられており、これは7~8月の土曜日に行われる一連の催しにつけられたタイトルの、ジャンルを超えた音楽のウィークエンド・コンサートで、ジャズやバラライカの演奏、ピアノのピオトル・アンデルシェフスキやリアス室内合唱団なども登場する。

またコンサートホールは演奏者のための場だけでなく、理想的な環境で創作に励み音楽を育む場でもありたいという理念も掲げている。ブルージュ2002の開幕直後から、このホールの音響が際立って優れていることに注目したアシュケナージは、昨年3月にEUユース・オーケストラと、5月にはレイキャビク室内オーケストラとここでの演奏を行ない、今回はN響と共に3回目の指揮台に立つことになる。

リュブリャナ・サマー・フェスティバル(リュブリャナ)

<リュブリャナ・サマー・フェスティバル>の起源は、リュブリャナ観光協会が観光週間を制定した1952年に遡る。この翌年、第1回<リュブリャナ・サマー・フェスティバル>が開催されて、それ以来多くの文化、商業、民俗芸能、観光およびスポーツのイベントが行われ、今年で51回目を迎える。毎年夏になると、国内外の多くのアーティストたちがリュブリャナに集まり、様々なパフォーマンスを披露。アシュケナージ、メニューヒン、ロストロポーヴィチ、カレラス、ペンデレツキや、世界一流のオーケストラ、オペラハウスが出演する。

近年では50~70件の異なったタイプのイベントが催されており、50,000人の観客によって、このフェスティバルが新しいスロベニアの首都の夏の行事として認められていることが証明されている。その内容は、オペラ、バレエ、ミュージカル、室内楽、管弦楽、歌曲、ジャズ、展覧会、アーティストック・コミュニティ、ストリート・パフォーマンスなど多岐にわたっている。

2000年1月には、リュブリャナ・フェスティバルの主催者がリュブリャナ城の管理業務を引き継ぎ、サマー・フェスティバルの会場として使用されるようになった。

カリンシアの夏音楽祭(フィラッハ)

カリンシアの夏音楽祭は、1969年ウィーン・フィルのヘルムート・ヴォピッシュ教授とオシアッハの主任司祭ヤーコブ・シュティンゲル教授によって始められ、瞬く間にオーストリアの音楽祭の中でもトップクラスの地位を確立した。ヴォピッシュが1980年に死去した後は、音楽監督Dr.ルダ・フレリヒがクラシック音楽の伝統の上に立つという創立者の意思を引き継ぎ、2003年まで<カリンシアの夏音楽祭>を率いた。

常に時代の流れに遅れることなく、毎年この音楽祭とその舞台のためにバイタリティや空想力、独創的な発想力をもって、この音楽祭ならではのプログラムが作り上げられ、国際的な音楽界の大物と地元の音楽家が互いに調和を保ちながらスターとして登場した。そして優れた現代の作曲家への新しい教会オペラの委嘱や、子供たちによる子供たちのための音楽劇場プロジェクトなどの独自路線は、通常行なわれるありきたりのプログラムを、はるかに超えるものとなっている。

この音楽祭の特徴は、開催地に合ったプログラムを演奏することにもある。教会やバロック式劇場を持つオシアッハと近代的なコングレス・センターを持つフィラッハで、その物理的な条件や雰囲気合ったプログラムがそれぞれ提供される。また、現代音楽が受け入れられるようにするための配慮もあり、今回はレジデンス・コンポーザーであるマクスウェル デーヴィズの作品が多数演奏される。N響が演奏するオーケストラとバグパイプのための曲も、彼の作品である。

シュレスヴィヒ・ホルシュタイン音楽祭(キール)

シュレスヴィヒ・ホルシュタイン州とハンブルク市の約33の開催地にある55以上の会場で行なわれる約130のイベントに、世界的に有名なクラシックのアーティストや多くの有望な若い演奏家が出演する。

シュレスヴィヒ・ホルシュタイン州で最も魅力的でユニークな教会や古城などの扉が開かれ、そこで催されるコンサートを引き立てる。1986年の設立以来、シュレスヴィヒ・ホルシュタイン音楽祭は、世界でも有数の文化イベントとして確固たる地位を占めてきた。年を重ねるにつれ、その様相は大きく変化したが、新しい音楽の傾向を取り入れつつ一時的な流行には抵抗する姿勢に変わりはない。

また、クラシック音楽の大スターだけでなく、新鋭の若いアーティストも招聘し、シュレスヴィヒ・ホルシュタインの魅力的な演奏会場での演奏というキャリアを提供している。変化に富むプログラムは毎年異なるテーマで特定の国の音楽やアーティストを中心として構成されており、聴衆は音楽の盛んな各国のさまざまな側面を知ることが出来る。

コンセルトヘボール サマーコンサート(アムステルダム)

世界的な音楽の殿堂として知られるコンセルトヘボールは、そこで演奏することが世界中のオーケストラにとって、最大の夢であるともいわれている。夏のコンサートは、低料金で聴くことのできる人気のシリーズで、ヨーロッパの大手金融投資会社Robecoが毎年スポンサーとなっている。N響が2001年に出演したのもこのシリーズで、今年の大きなテーマは“Natuur”(Nature)。このコンセプトのもとに更に17のテーマが決められ、大小のホールを使用してクラシックからジャズ、室内楽やソロ・コンサート、子供のための教育プログラムまでさまざまなタイプの音楽が用意される。

2004年はテーマ・コンポーザーに没後100年にあたるドヴォルザークが選ばれ、出演者にはイヴァン・フィッシャー、ピンカス・ズーカーマン、エレヌ・グリモー等が顔を揃えている。

[曲目について]

P. マクスウェル デーヴィズ/オークニーの結婚式

～オーケストラとバグパイプのための

この作品はボストン・ポップス・オーケストラの委嘱で同団体の100周年のために作曲され、1985年5月10日ボストンのシンフォニー・ホールで、ジョン・ウィリアムズの指揮により初演された。オークニーのホイ島での結婚式に嵐の中を招待客が到着したあと、楽団の音楽がダンスに合わせて盛り上がり酒宴のクライマックスへと続いていく様子を、絵葉書風に描いたものである。招待客は行進曲の余韻を感じながら家路を辿るうちに、太陽がケイスネスの空に昇っていくという描写が、バグパイプによって奏でられる。

バグパイプはスコットランド本土と西諸島のものと考えられているが、ケイスネスの空での日の出は実際にホイ島から海の向こうにみられるため、マクスウェル デーヴィズはオークニーという舞台上でバグパイプを「借用」してもよいと考えた。この効果的な方法によって、鮮明な光景の中で太陽の輝きを感じさせるほどの音楽的な比喩が実現されている。

マクスウェル デーヴィズの祖先を遡るとスコットランド南部の国境地域にたどり着くが、逆説的に彼の作品の中でスコットランドを表しているのは、北部のオークニー諸島である。1970年に隠遁先としてオークニーを選んでからは、周りの海からの様々な音や忘れられない風景、そして世界の終末を思わせる光の効果が活気に満ちた具体的なインスピレーションの源であり、その結果止めどない流れのように作品が生み出されている。



© S. Takehara

指揮:ウラディーミル・アシュケナージ
Vladimir Ashkenazy, conductor

アシュケナージの音楽活動の第1段階はピアノに捧げられた。旧ソ連の中央音楽学校およびモスクワ音楽院に学んだ彼は、1955年のワルシャワのショパン国際ピアノ・コンクールで第2位を獲得し、1956年のブリュッセルのエリーザベト王妃国際音楽コンクールと1962年のモスクワのチャイコフスキー国際コンクールで優勝した。これ以後アシュケナージは30年にわたって世界を巡回し、ソロと協奏曲の両方にわたってレパートリーを常に拡大している。これと平行して録音の面でも、おそらく今日の世界で最大のカタログを築き上げている。

1970年以降、アシュケナージは次第に指揮活動を活発に行なうようになり、フィルハーモニア管弦楽団(首席客演指揮者)、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団(音楽監督)、クリーヴランド管弦楽団(首席客演指揮者)、ベルリン・ドイツ交響楽団(首席指揮者・音楽監督)のポストを歴任している。

アシュケナージは1998年から2003年にかけてチェコ・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者を務め、多くの演奏旅行、録音、特別プロジェクトなどの活動を行っている。

現在は桂冠指揮者を務めているフィルハーモニア管弦楽団と密接な関係を継続しており、ロンドンおよび海外で著名なプロジェクトを成功させている。また、EUユース・オーケストラの音楽監督およびアイスランド交響楽団の桂冠指揮者を務めている。

ウラディーミル・アシュケナージは今シーズンNHK交響楽団の次期音楽監督として活動し、2004年7月のヨーロッパ・ツアーを指揮したのち、9月に音楽監督に就任する。2003年11月には、NHK交響楽団との最初のCD、ラヴェル管弦楽集がリリースされた。

ピアニストとしても引き続き活動しており、ショスタコーヴィチの(前奏曲とフーガ)全曲集(1999年度の最優秀器楽独奏者としてグラミー賞を受賞)などを発表し続けている。



c Georg Paul

ヴァイオリン:ジュリアン・ラクリン
Julian Rachlin, violin

28歳にしてすでに、ジュリアン・ラクリンは同世代でもっとも優れたヴァイオリニストの地位を確立していた。この15年間、世界中の著名なコンサートホールで観客からの喝采を浴び続けており、クラシックの音楽家に対するもっとも権威ある賞の一つであり、誰もが切望する「キジアーナ音楽院」国際賞を受賞した。

1974年リトアニアに生まれたラクリンは、1978年に音楽家である両親とともにオーストリアに移住し、その国籍を取得。ウィーン音楽院で高名なボリス・クシュニル教授に師事。1988年にアムステルダムのコンセルトヘボールで開催されたユーロヴィジョン音楽コンクールで「最優秀年少音楽家」賞を受賞し、一夜にして国際的な名声を獲得した。これを機にマゼールから招かれ、ベルリン音楽祭でのフランス国立管弦楽団とのデビュー、ヨーロッパと日本へのピッツバーグ交響楽団との演奏旅行を行なった。その後、ムーティ指揮ウィーン・フィルの最年少ソリストとして、デビューを飾った。

シカゴ響、イスラエル・フィル、ロンドン・フィル、ロサンゼルス・フィル、ミュンヘン・フィルハーモニー、パリ管、フィルハーモニア管、ロイヤル・フィルハーモニー、サンフランシスコ響をはじめとする欧米のメジャー・オーケストラに出演。またアシュケナージ、チョン・ミョンフン、デュトワ、ガッティ、ハイティンク、メータ、プレヴィン、サロネン、サヴァリッシュ等が共演した指揮者として名を連ねている。

室内楽演奏家としてもアルゲリッチ、バシュメット、クレーメル、マイスキー、ロストロポーヴィチ等と共演。また2000年夏のドプロヴニク音楽祭で成功を収めた後、「ジュリアン・ラクリンと仲間たち」というラクリン自身のための音楽祭が設けられ、毎年、室内楽と協奏曲の魅力的なプログラムが演奏されることになっている。

1999年9月に、ラクリンはウィーン音楽院の教員となり、2000年にはヴィオラの演奏も開始した。現在、世界中で行われる公演にも毎回、ヴィオラの演奏が含まれている。

N響とは、1993年9月の定期公演のチャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲で共演。今回は2度目の登場となる。使用楽器はオーストリア・ナショナル銀行より貸与されている1741年製のガルネリ。